

# 6. ハチ・アリのなかま



ハチ・アリ

大きさ（体長）

頭の先から腹の先までの長さ

# オオスズメバチ (スズメバチ科)

●よく見られる時期 4月～11月 ●大きさ 27～37mm



ハチ・アリ

(クヌギの樹液を吸うオオスズメバチ)

オオスズメバチは、土の中に巣を作ります。本来、山野に巣を作りますが、人間が山や野原を開発したため、人のすんでいる近くで巣を作ることが目につくようになりました。秋、ハイキング中の事故が起こるのは、歩く振動が巣に伝わって、警戒したハチが巣をとび出し襲ってくるためです。日本最大のハチで、肉食ですが、夏、コナラやクヌギの樹液も吸います。

## セグロアシナガバチ (スズメバチ科)

●よく見られる時期 4月～10月 ●大きさ 20～23mm



日本のアシナガバチの中で最も大きく、刺されると痛みます。平地から山地にふつうに見られます。家の軒のきに巣を作り、都市部では、フタモンアシナガバチすの巣より多く見られます。

## キボシアシナガバチ (スズメバチ科)

●よく見られる時期 4月～10月 ●大きさ 14～18mm

エゴノキ、ウリハダカエデ、モミジイチゴなどの地面から70cm～5mの高さのところにある小さな枝や、大きな葉の裏に巣を作ります。

「キボシ」は、胸や腹の前の黄色のもん紋から名づけられましたが、個体によっては、はっきりしません。



# フタモンアシナガバチ (スズメバチ科)

●よく見られる時期 4月～11月 ●大きさ 14～18mm



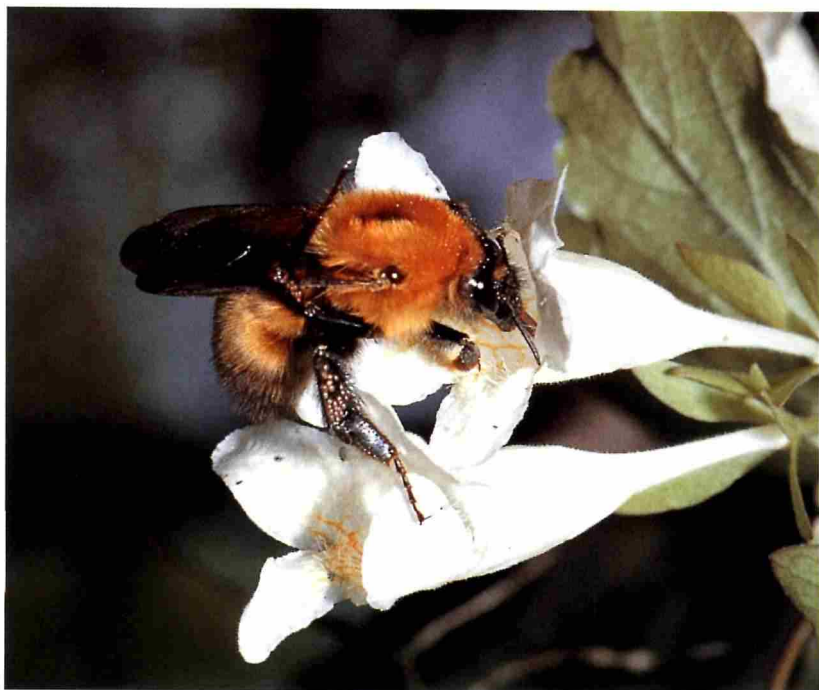
ハチ・アリ

腹部に一对の丸い紋を持つところから名前がつけました。

木の枝や軒下に釣り鐘型の巣を作ります。川原など開けたところに多く見られます。攻撃性は強いです。秋遅くに軒や塀でひなたぼっこしているのは、たいていこの種類のオスです。オスは顔が全体に黄色いのですぐにわかります。

## トラマルハナバチ (ミツバチ科)

●よく見られる時期 3月～11月 ●大きさ 10～18mm



ハチ・アリ

巣は、地中の穴に作ります。おとなしいハチで、刺される心配はほとんどありません。花の蜜や花粉を食べ、植物にとっては花粉を運んでもらう大切なお客さんです。上の写真は女王バチです。



## ヒメハラナガツチバチ (ツチバチ科)

●よく見られる時期 3月～11月 ●大きさ 11～22mm



胸や腹の各節に、白い長い毛が密に生えています。草地で地面すれすれに飛ぶ姿がよく見られます。コガネムシのなかまの幼虫に、卵を産みつけます。

## クマバチ (ミツバチ科)

●よく見られる時期 4月～10月 ●大きさ 22mm

フジの花によく飛んできます。大きな体と翅の音でおどろかされますが、おとなしいハチで、刺される心配はほとんどありません。空中に静止しているのはオスのハチで、なわばりを主張しています。



## ニホンミツバチ (ミツバチ科)

●よく見られる時期 3月～11月 ●大きさ 13mm



ハチ・アリ

昔からいる日本のミツバチです。市内では、5月ごろ、<sup>すわ</sup>巣分かれをして、大きなかたまりになっていることがあります。セイヨウミツバチより体は少し小さく、全体に黒い色をしています。巣に近づきすぎると、<sup>こうげき</sup>攻撃してきます。スズメバチに<sup>おそ</sup>襲われると、スズメバチに働きバチが取り囲んで球を作り、温度を上げてスズメバチを殺します。セイヨウミツバチはこの方法を知らないため、スズメバチに<sup>みなころ</sup>皆殺しにされてしまいます。

## セイヨウミツバチ (ミツバチ科)

●よく見られる時期 3月～11月 ●大きさ 13mm



ハチ・アリ

蜜みつをとるために、ヨーロッパから日本に持ち込まれました。

はたらきバチは蜜のありかをなかまに知らせるために、巣に帰ると8の字運動をします。

巣に近づきすぎると、次々と飛んできて攻撃します。このなかまは、刺すと針が相手に残り、刺したハチは死んでしまいます。



## —ハチのなかま—

ハチは、女王バチを中心に働きバチが餌を集め、幼虫を育て、巣を大きくし、家族を増やしていきます。

ハチは、おもに肉を食べるスズメバチの仲間、花粉や蜜を食べるミツバチなどのなかまなどに分けられます。

ハチは、毒針を持っていて、巣を守るためや、餌をとらえるために使ったりしているので、ハチの性質を知っておくことも大切です。また、ハチの毒針は産卵管が変化したもので、どの種類もオスは刺しません。

## —ハチに刺されないために—

- (1) 巣をみつけたら、静かに巣から一直線にはなれます。
- (2) ハチから攻撃を受けた場合も、巣から一直線にはなれます。
- (3) 帽子や衣服は、明るい色のものを身につけます。
- (4) 特効薬はなく、刺されたら、すぐ医者にみてもらうようにします。
- (5) 家庭用の殺虫剤スプレーで、攻撃をへらすことができます。
- (6) スズメバチの仲間は、夏の終りから秋にかけて攻撃的になるので、ハイキングの時は、特に気をつけます。



(セグロアシナガバチの巣)

## シオヤアブ (ムシヒキアブ科)

●よく見られる時期 6月～9月 ●大きさ 25～30mm



ハチ・アリ

枯れ枝などに止まっていて、通りがかった虫を背後から襲い、するどい針のような口で突き刺して体液を吸います。ハエやハチ、コガネムシなどをよく捕食します。

## シマハナアブ (ハナアブ科)

●よく見られる時期 3月～11月 ●大きさ 11～12mm



春から秋にかけていろいろな花にやってきて、蜜や花粉を食べます。胸に灰黒色のしま模様があることからこの名がつけました。

## ホソヒラタアブ (ハナアブ科)

●よく見られる時期 3月～11月 ●大きさ 15mm

幼虫は、アブラムシ (アリマキ) を食べて育ちます。成虫になると、花の花粉や蜜を食べます。



## クロオオアリ (アリ科)

●よく見られる時期 4月～11月 ●大きさ 7～13mm

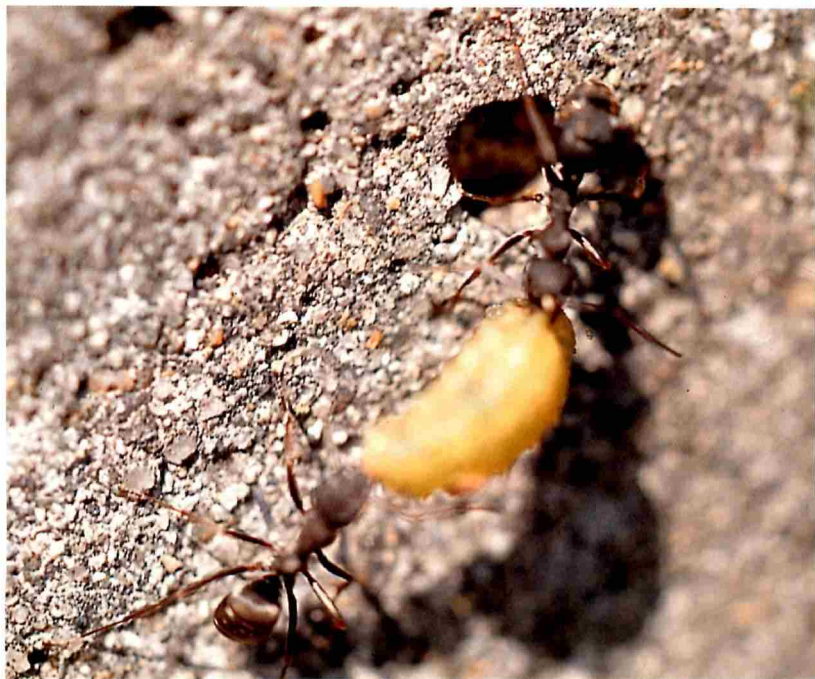


ハチ・アリ

日<sup>ひ</sup>当たりのよい乾いた土地で、よく見られます。アブラムシ（アリマキ）やいろいろな花にやってきます。巣の入口に土が輪<sup>りんじょう</sup>状に盛られていることもあります。体の色は、黒色でにぶい光沢があります。

## クロヤマアリ (アリ科)

●よく見られる時期 6月～10月 ●大きさ 5mm



ハチ・アリ

日当たりのよい乾いた所に巣をつくり、入口には土をよく盛り上げます。体の色は黒色で、少しいつやがあります。昆虫や蜜<sup>みつ</sup>など、なんでも食べます。



## トビロシワアリとトビロケアリ (アリ科)

●よく見られる時期 一年中



トビロシワアリ (左上) トビロケアリ (右下)

トビロシワアリ (体長 5 mm)

色は黒い<sup>かつしよく</sup>褐色。頭は四角に近い。植物の種子を集めたり、小さな昆虫を<sup>つか</sup>捕まえたりします。

トビロケアリ (体長 3 mm前後)

家の周り<sup>まわ</sup>でよく見られます。アブラムシ (アリマキ) の蜜<sup>みつ</sup>を好むので、小枝や草の上でよく見かけます。巣はくさりかけた木や根元のくさった所などにつくります。通り道をトンネルのように土でつくります。